

C-42 家庭洋裁に関する調査研究(第1報)

東京家政大家政 ○本郷美枝 汐田美智子 森静香

目的 各家庭において、主婦が行う洋裁がどの程度であるかの実態を把握するとともに、今後の被服構成指導の参考のための目的をもって実態調査を実施し考察する。

方法 ①調査時期 昭和46年7月 ②調査対象および方法 東京都の附属中学校1校、区立中学校2校の1年生～3年生の生徒を通じ、東京都城北地域および埼玉県の一部の32才～59才の主婦に調査用紙を配布し、解答を求める方法で調査 ③調査内容 年齢、学歴、専門教育、職業、家族構成などの他に、洋裁や服飾などについてヒントをえているもの、洋服の新調について、また家庭において洋裁を行うかなどの各項目について、回収総数67名につき、集計し考察した。

結果 各項目の実態の結果を報告、考察する：ととする。

最終学歴は、新高卒・旧高卒が多く、最終学歴の他に洋裁学校、個人教室等で洋裁についての専門教育を受けた人は、58.2%で、主婦の職業が有の人は、29.4%で家族構成は、男2人女2人、男1人女3人、男2人女3人などが多かった。

なお、洋裁や服飾などについてヒントをえているものとしては、主婦向実用誌や服飾専門誌の他に、既製品をみる、新聞の家庭欄を参考にする人が多くあり、婦人服、子供服などの洋服の新調については、既製品を買う、自分で縫う、その時々で異なる、知人にたのむ、洋裁店にたのむなどの順で多かった。

また、家庭において洋裁をする人は、67.9%であった。